

## 平成30年度第1回教育課程編成会議 議事録

【日 時】平成30年12月14日(金) 10:00～10:40

【場 所】こころ医療福祉専門学校壱岐校

【委 員】品川 洋毅, 木屋村 新悟

【事務局】中野 勝, 田島 百合子, 川口 進一朗, 開 友香, 藤 玲子

### 1 開会の辞

#### (1) 開校から現在までの経過報告

木屋村委員：地域行事への参加が積極的なのはとても良いと感じている。  
実習生も大変真面目で良かった。

品川委員：地域とのコミュニケーションはとても大切。壱岐校の学生は実習中非常に態度がよく、真面目で仕事が丁寧だった。来年も受け入れたい。  
介護福祉士資格は卒業と同時に取得が可能だろうか？

田島：法律が改正され専門学校卒業者も国家試験に合格しなければ資格取得できなくなったが、現在は経過措置として卒業と同時に5年間限定の資格を得られる。その5年間介護職として勤務することで正式な資格を得られる。  
留学生の国家試験合格は難しい部分があるが、2年生の中にはルビをふっていない教科書を不自由なく読めるようになった者もいる。

#### (2) 卒業予定者の進路について

品川委員：留学生が一人でも壱岐に残ってくれればと願っている。

地元学生は壱岐に残るのだろうか？

田島：日本人学生は全員壱岐での就職を希望している。

中野：公民館大会でもご意見をいただいたが8名中7名は島外に就職が決定している。1名は壱岐での就職を希望している。

日本人は全員壱岐に残ることを前提に壱岐校入学している。

また、毎年留学生全員が壱岐で就職すると勤務先が足りなくなるのではとの意見があった。

全員残った方が人口減少の歯止めになり、壱岐市のためになるだろうが、住環境の問題、交通手段の問題が解決しない限り留学生の定着は困難。壱岐に残ったとしても買い物等の都合上、居住地は郷ノ浦に集中する恐れがある。そこから就職先が固定化され、偏りが出て新たな問題になる可能性が出てくる。壱岐に残る1名はやっと部屋を借りられることになったが、買い物手段の問題は未解決。留学生が2年間在学することによって、その間の幅広い意味での交流人口の増加に寄与できていると捉えていただきたい。また、これまでは島外に出ていた高校生が入学することによる島外流出の歯止めとなっていると考えている。

品川委員：壱岐は住むところはたくさんあるが入居する人がいない。

住居の紹介については壱岐市がある程度協力してくれると考えられるが、交通アクセスとなると難しいかなと感じている。外国人が日本に定住して就労するには、生活できるだけの保障が必要。  
処遇面で別の国に外国人人材が流れている部分もある。

(3) 人材不足について

品川委員：長崎県下でも壱岐市は特にどこの介護施設も人材不足で困っている。職員は休みも少なく大変だし、職員の高齢化も問題となっている。有資格者については再々雇用も実施し70歳以上でも雇用するほど人材不足は深刻である。

中野：1人が複数の職を担う・高齢者雇用・外国人雇用・AI活用等の工夫が必要になると考えられる。

手っ取り早いのは高齢者。次が外国人雇用ではないだろうか。

介護人材不足の解消に少しでも応えられるよう教育活動に力を入れていきたい。